外部評価者：大平 哲・高梨 和紘

総合評価 B　持続的成長に向けた基盤整備
人材育成への支援

10 インドネシア

# シャクワラ大学整備拡充事業

**アチェ州開発の中心拠点となる大学を支援し**
**地震・津波被害の甚大なアチェ州の復興に貢献**

| | |
|---|---|
| **承諾額／実行額** | 54億6,700万円／54億6,400万円 |
| **借款契約調印** | 1993年11月 |
| **借款契約条件** | 金利2.6％、返済30年（うち据置10年）、一般アンタイド（コンサルタントは部分アンタイド） |
| **貸付完了** | 2003年6月 |
| **実施機関** | 国家教育省高等教育総局 |

## 本事業の目的

ナングロ・アチェ・ダルサラーム州（アチェ州）シャクワラ大学において、農・工学部の校舎建設、教育・研究機器整備、教員の留学プログラム等を実施することにより、同学部の教育の量的拡充・質的改善および研究活動の強化を図り、科学技術分野の専門家・技術者の育成等を通じて、同州およびインドネシアの開発の促進に寄与することを目的とする。

## 本事業実施による効果（有効性・インパクト） 評価 a

教育の量的拡充については、学生数、入学者数、教員数ともに当初計画を上回っている（例：農・工学部学生数は当初計画計2,994人に対し、2004年実績では計5,070人。両学部の入学者数は、当初計画計406人に対し、2004年実績では計897人）。一方、高校までの理科教育の不足、農・工学部の基礎教育を担う理学部の未整備等により、質的改善は十分に達成されていない（農学部の卒業率※は、当初計画14.5％に対し、2004年実績では9.1％等）。また、2004年末に発生したスマトラ沖地震・津波被害の復興活動において、シャクワラ大学研究者とりわけ、本事業の留学プログラムで学位を取得した教員の活躍は目覚ましく、本事業が果たした役割は極めて大きい。よって、概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

※当該年度の卒業者数／当該年度の在籍者数

## 本事業実施と国家計画等との整合性（妥当性） 評価 a

本事業の実施は、審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。独立運動が終結し、平和プロセスが進むなかで、アチェ州開発の基本政策が策定されており、地域産業へのノウハウや人材を提供するシャクワラ大学の整備は、同政策に一致するものであり極めて重要である。

## 事業実施の経済性（効率性） 評価 b

本事業では、事業費については、当初計画を下回ったものの（計画比89％程度）、期間は計画を上回り（計画比127％程度）、効率性についての評価は中程度と判断される。なお、復興の中心となったアカデミック・アクティビティ・センター建設等が追加的に実施された。

## 今後の展望（持続性） 評価 b

本事業は、理学部が未整備であること、地震・津波被害により維持管理が十分に行われていないこと、復興活動の影響で、教育・研究に十分専念できないこと等が確認されており、若干の懸念があるものの、持続性は概ね問題ないと評価される。

## 結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は高いといえる。なお、事業効果の一層の発現のためには、農・工学部の整備だけでなく、同学部の基礎教育を担う理学部や研究・教育機関としての大学に不可欠な図書館の整備が必要である。

日本に留学した教授が日本で習得した技術を応用し、軽くて耐水性のあるセメント資材を開発。復興のための住宅建設に貢献した。

日本に留学した教授が乾期にも強いイネを品種改良。

### 開発途上国専門家の意見

本事業は、アチェ州の地域開発、地震・津波被害からの復興に大きく寄与している。更なるインパクトの発現のためには、優先的な予算手当の継続、大学運営の改善等が必要であろう。

専門家の氏名：Mr. Surjadi Soedirdja（公的部門）
元内務大臣、元ジャカルタ州知事、元大統領顧問。